

満員御礼！熱気に満ちた義理人情劇 第14回高玉芝居定期公演

11月23日、毎年恒例の高玉芝居定期公演がさくらの里文化伝承館（蚕桑地区コミュニティセンターホール）で開催されました。

この日の演目は「上州みやげ仇討桜（あだうちざくら）」。会場には町内外から約300人が来場し、感情のこもった迫真の演技に見入りました。第一幕が終わり、高玉芝居「高栄会」の児玉敏座長は「年々お客さんの熱気も増してきて演技にも力が入る。観に来てくれる方や芝居を支えてくれる方に感謝したい」とあいさつ。さらに「地域の文化に触れる」ことを目的に、今年も蚕桑小学校の児童が芝居を見学するなど、演じる者、そしてそれを観る者によって伝統の灯が次代へとつながっていきます。



観衆の心を引き込む熱い演技

最上川と地域のつながりを身近に考える 最上川229シンポジウムを開催

11月19日、未来に広がる最上川229シンポジウムが町文化交流センターあゆーむで開催されました。

これは、美しい山形・最上川フォーラムなどが主催するもので、この日は町内外から約90人が参加。午前に展示・ワークショップ、午後にはパネルディスカッションが行われました。パネルディスカッションでは、東北芸術工科大学基盤教育研究センターの渡部泰山教授がコーディネーターを務め、美しい山形・最上川フォーラム置賜地域部会会員の今野正明さん（高玉）など4人がパネリストとなり、「今、考える最上川と地域の交流」をテーマに意見交換を行いました。

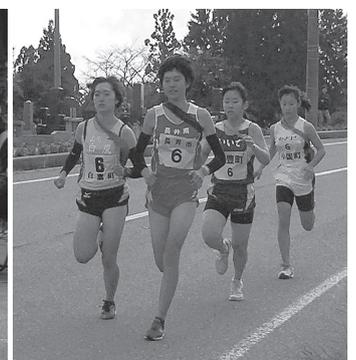


それぞれの立場で意見を交換し合ったパネルディスカッション

第59回西置賜地区駅伝競走大会 白鷹町チームが秋の西置賜路を熱走

澄んだ秋の空気に包まれた11月5日、西置賜1市3町でたすきをつなぐ西置賜地区駅伝競走大会が、小国町から長井市までの総距離49.7kmのコースで開催されました。

今年も小学生から社会人ランナーまでバランスのとれたチームに仕上がった白鷹町チームは、1区の菅結愛選手がトップでたすきをつなぐと、その後も小中学生ランナーが立て続けに区間賞を獲得。一時は順位を3位まで落とす場面もありましたが、チーム一丸となって最後まで熱い走りですすきをつなぎきり、昨年に続く第2位という結果を収めました。



【区間賞】	3区 小野亨太（白鷹中2年）
1区 菅 結愛（鮎貝小5年）	4区 高谷沆瑛（荒砥小6年）
2区 國谷美裕（白鷹中1年）	6区 菊地愛羅（東海大山形2年）

※6区 菊地愛羅選手は区間新記録でした。